

当院における ERA 検査の有用性についての検討

門上大祐¹, 松岡麻理¹, 重田護², 太田志代¹, 北山利江¹, 勝佳奈子¹, 中岡義晴¹
森本義晴³

¹IVF なんばクリニック ²IVF 大阪クリニック ³HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

反復着床障害(RIF)に対する ERA 検査の有用性について検討する。

【方法】

2018 年 3 月から 2019 年 4 月までに ERA 検査を行った 83 名の患者を対象とした。月経初日からエストラジオールを 2 週間内服し、子宮内膜>8mm 以上かつ血中 P₄<1.0 を確認した翌日からクロルマジノン酢酸エステル錠を開始して 104 時間後の子宮内膜で ERA 検査を行った。ERA の結果に応じたホルモン補充周期凍結融解胚移植(pET)を行い、ERA 検査前と治療成績を比較した。治療成績は妊娠反応陽性率(妊娠反応陽性数/移植回数)と着床率(胎嚢確認数/移植胚数)、流産率(流産数/妊娠反応陽性数)で評価した。

【結果】

対象患者の平均年齢は 33.8±3.9 歳、平均移植回数 5.5±3.1 回、平均移植胚数 7.5±5.4 個、妊娠反応陽性率 13.6%、着床率 4.3%、流産率 90.6%であった。ERA の結果、Pre-receptive が 77 人(92.3%)であり、内訳は+12 時間:7 人/+24 時間:63 人/+48 時間:7 人であった。一方、Post-receptive は 4 人(4.8%)であり、内訳は-12 時間:1 人/-24 時間:2 人/-48 時間:1 人となり、Receptive は 2 人(2.4%)であった。pET を 54 人/70 周期で行った結果、妊娠反応陽性率 41.4%、着床率 26.0%、流産率 37.9%であり、いずれも検査前と比較して有意な改善を認めた。一方、pET の治療成績を 40 歳未満と 40 歳以上の群で比較したところ、有意差をもって前者が優れていた。

【結論】

当院のプロトコールにおける ERA では大部分が Pre-receptive であり、pET により治療成績は有意に改善した。特に 40 歳未満で顕著であり、若年 RIF に対して ERA は有効な治療法の一つとなりうることを示唆された。